

平成29年度第2回協働事業評価会

平成29年7月28日（金）午後2時30分

本庁舎6階 第3委員会室

出席者：宇都木委員、関口委員、及川委員、伊藤委員、吉村委員、平井委員、加賀美委員、村上委員、森委員

事務局：地域コミュニティ課長、神原管理係主査、勝山主任、松永主事

久塚会長 定足数に足りていますので、始めさせていただきます。まず、資料の確認からお願いします。

事務局 では、事務局のほうから資料の確認をさせていただきたいと思います。

資料のほうなのですが、資料1となっているもの、ホッチキスどめになっているものを3種類ご用意させていただいております。

資料1－①から③までスポーツ、商店街、地域防災の担い手の3種類ご用意をさせていただいております。

それから、資料2といたしまして、新宿区協働事業評価報告書（案）ということで、報告書の添付資料以外の部分をまずはきょうご用意をさせていただいております。

それから、資料本文のほう、ちょっと入っていないのですが、各事業の点数表の白紙のものを1枚ずつご用意させていただいております。こちらなのですが、今コメントのまとめのほうに、各項目に評価点を入れさせていただいておりますが、こちら平均点で算出したものを事務局のほうで機械的に入れさせていただいたものでございます。

本日の会で評価点につきましては、皆様でご協議をいただいて決定をしていただくということになりますので、こちら白紙をご用意させていただきましたので、後ほどご協議の中で決まった点数のほうを、丸をつけてご使用いただければと思います。

それから、協働支援会議等開催予定の最新版と次回の評価会の開催通知のほうもご用意をさせていただいております。こちら後ほどご説明をさせていただきます。

資料につきましては以上でございます。

久塚会長 きょうの会議の進め方としては、まずスポーツのところから、それぞれの委

員の評価点というものを平均にしたものをコメントにまとめるというところに、最初③というのがありますけれども、この③というのは、課題はあるがほぼ適切であるというのに該当するというで③になっているわけですが、それをこの会議体というか、最終結論としてどうするかというものを今から進めていきたいと思えます。

まず、スポーツのほうから、新宿スポーツ環境推進プロジェクトというもので、合わせて資料1-①をごらんください。第1番目、事業における区民ニーズや課題のとらえ方というところで、それぞれの委員さんは②、②から始まって③、③、③と②と③が同じ数あって④が一つということで、③ということよろしいですか。

各委員 はい。

久塚会長 では、一番目の団体の第1の項目につきましては③。

では、ページをあけてください。②、②、③、③、③、③、④、④ということで評価点③。

協働の相手への期待とその成果、ブランクがたくさんございますが、①、②、②、②、③、③、③、④、④。これは③ですかね。

宇都木委員 この一番上の③は、これは②ではちょっと評価し過ぎだから③にしましたという③なのか、それちょっと意味がわからない。もう少し他の団体との連携がとれなかったのかという否定的な言葉だから、これ、どういうふう理解しているのですか。

久塚会長 今の質問は質問なのですが、だれが書いたかとその人が答えたらわかるので、記入された方がどなたかは別として事務局、これ、文章はもうちょっと長かったですか、このままだった？

事務局 内容はそのまま入れさせていただいております。

久塚会長 このままですね。しかし、コメントとそれから課題はあるがほぼ適切であるというそのもう少し他の団体と連携をとれるとよいという課題が残っているというコメントと理解して③でいいのではないのでしょうか。

これが②に格上げになっても③になると、そういうことになる。あるいは、④にずれても③になるのではないですかね。

各委員のコメントの今の欄の記述については、コメントをまとめるときに生かすということよろしいですか。

そして、評価は③でよろしいですか。

各委員 はい。

久塚会長 では、次に移らせてください。4番目、役割分担の決定方法。②、②、②、これは③ですね。

宇都木委員 コメントのほうは後でやるのですか。

久塚会長 コメントにつきましては、これを30分かからずに終えたところで、どのように文章をどうつくったかということを含めて事務局のほうから説明していただいて、それで文章を触ることにするというのが後半、4分の3の時間帯でやりますので。

では、5番目の項目にいかせてください。事業の進捗状況や事業に関する情報の共有、②、②、②、②。だけど③ですね。

宇都木委員 これもコミュニケーションがとれていたり情報の共有が図られていればこういう結果にならないのです。だから、それはその場限り、ああ、きょうはよかったね、あれはよかったねという話し合いができて、みんながいろんな話し合いをやっていますよと言うのだけれども、そのことが結果に次どういう、いい結果のほうに導いていくコミュニケーションでないと意味がないのだと思うので、ただこの評価の仕方がお話し合いがやられたり、いろんな意見交換がされているからコミュニケーションがとれているから②ですよという評価だとすると、後につながらないのではないかという気がするのです、これはどういうふうに理解しているのですか。

久塚会長 反論するのではないですけども、この評価した人が②と考えて、コミュニケーションなどについて本当にそうなのというコメントのまとめの段階で、今のような評価について発言というか、文章まとめでご意見を言っていただくということでもいいですか。

②についているけれども、これは本当は③だよねとは言いにくいような気がするけれどもいかがですか。

宇都木委員 だから②に評価した人は、それなりの評価があるのだろうと思うけれども、これ評価が結果につながらないと評価にならないのではないかと私なんかは思うけれども。よかった、よかっただけではいい結果にはならないので、それは後でやると言うのだったらいいけれども。

関口委員 念のための確認なのですけれども、平均点のこの計算というのは四捨五入している点ですよ。

事務局 四捨五入しています。

関口委員 だから、今計算すると2.5555だから。

2.6として、そうすると②と③の間だから、③寄りだから③にしたという処理なので

すか。

事務局 そういうことになります。

久塚会長 これ、難しいところなのですから。4段階なので、④というのがどこに位置するかというのは非常に難しい、③の次では。

吉村委員 質問していいですか、単純なのですから。一番下が⑤になっているのですが、評価点を5点つけた人がいるのですか。

事務局 評価ができない欄に書いていただく欄になっていまして、この⑤は。

久塚会長 去年もそうだったのですよね、たしかね。

事務局 去年もそうです。

久塚会長 では、6ページ目をお開きください。①から始まって④、そしてブランクがあります。

宇都木委員 話し合いが行われているからいいというのもその人の主観だからしょうがないにしても、みんな話し合いは行われているのだ、どこも。行われていないところはないのだ。でも、それは成績に、評価につながるとすれば統一してやらないと、話し合いはどこでも行われているのだけれども。

久塚会長 また後ほどのコメントのまとめでお願いしたいのですけれども、なかなか厳しくて、これ③でギリギリとまっているみたいなイメージなのです。ただ、①の方がおられるのでかなり引っ張り合っているけれども、④が四つあるので。結果として評価点は③でよろしいですね。

各委員 はい。

久塚会長 では、7番目の項目をお願いします。当該事業実施における区民の意見集約ということでブルーが多い形になっていますけれども、これは③ということで。ここ、下に振っていますけれども③ということに。

8番目です。これも③でしょうか。

宇都木委員 これは④ではないかな。

久塚会長 ②が効いている。

宇都木委員 それにしても全然違う、上とは。

久塚会長 多分出るとは思いましたが、これもう一遍割り算したってこうなるのです。

事務局 3. 4点でギリギリ③ではあったのですけれども。

宇都木委員 何で③にしたかという理由がないなんていうのは、これは丸、ペケはそれ

では説得力がないよ。

関口委員 まあ、まあ、それを言い出すと切りがないので。

宇都木委員 だけど、それは点数だからちゃんと説明がつかないとまずい、とにかくどなたが書いたにしても。

久塚会長 ただこういうふうにもう答えが出てきていますので、次回、次年度以降のコメントを書く際の評価点、そしてできるだけブランクがないようにということで進めたいと思いますので、今年度は、評価点は評価点として平均で一応出したと。ただ、③ということになっていますけれども、昨年度までを振り返ると、単純に平均点を出すと同時に③と書いているけれども、この③というのは④に近いとかいろいろなご意見があつて④になった。例えばそういう移動はありますので。

宇都木委員 だめだよ、こういうのは。理由がないのに③と見ては説得力がない。だから、これは④にしたほうがいいのではないですか、④が五つあるのだから。

久塚会長 よろしいですか。

各委員 はい。

久塚会長 8番の項目は④というのにして。では、9番の項目です。評価点③です。

次、評価点④。

1 1番目の項目をお願いします。評価点です、真ん中に落ちていますが③。

1 2番、評価点③。事務局にかわって私のほうから今いただいたのを集約させていただきました。評価点④とされたものが8番と10番の項目で、それ以外は評価点③ということになりましたけれどもよろしいでしょうか、ご確認ください。

各委員 はい

久塚会長 では、このようにして今度は総合評価のところですが、13ページから以降総合評価、各委員のコメントがあります。15ページまでございますけれども、B、B、C、C、C、D、D、D、Dということで少し分散しましたけれども、宇都木さんは意見があろうかと思えますけれども、割り算の形をしますとCという形になるのですけれども、いかがでしょうか。

伊藤委員 Cでしょう。これ、一番上のBでもこれは結構C的だね。

久塚会長 要はCでしょうということで、Dではなくてよろしいですかねということなのですけれども。Cは何だっけ。

事務局 Cにつきましては、これは1、2、3、4とほぼ同じようなことで。

Aがすぐれていると評価できる。Bが一部改善することでさらなる発展が期待できる。Cが一部改善が必要。Dがかなりの改善が必要である。

久塚会長 ということ適切かどうかという表現ではなくて、続けていくような場合に、どういうところを形を変えて、どの程度というものがA、B、C、Dという形になっておりますけれども、もう1回Cを読んでもらえますか。

事務局 Cがおおむね適切であるが、一部改善の必要がある。

久塚会長 よろしいでしょうか。

各委員 はい。

久塚会長 あとはコメントのところ少ししっかり書くというふうにさせていただきたいと思います。

では、商店街ホームページ活性化事業、この資料1-②をごらんください。

最初の項目、事業における区民ニーズや課題のとらえ方、評価点②。よろしいですか。

各委員 はい。

久塚会長 では、成果目標の設定、評価点③。

協働の相手への期待とその成果、これ3番で評価点②ですね。

4番目、役割分担の決定方法、これはご意見があるかと思います。ただ、①番目に丸をつけて、それと②番が四つ、③番が五つということで、①番がちょっと上に引っ張っている感じになりますので、評価点は②と考えるか、③のほうにずらすか。

宇都木委員 理由のなき②はあまり評価しないで。説明がつかないのだから。

関口委員 私は②でいいと思いますけれども。

久塚会長 宇都木さん、②に確かに3名おられるけれども、あまり根拠が明確でない形になっているということについて、関口さんは②でいいということなのだけれども、先ほどを踏まえるとコメントがなくても評価点だからと今まできたわけです。それとは違う意見で関口さんあればご意見をいただきたいのですけれども。

関口委員 言ってしまうと①をつけた人間としては評価していると。あとコメントの件は適切であるという②とコメントづけづらいのですということも考慮していただけると。すぐれているならすぐれている理由を書きやすくして、③の課題はあるがほぼ適切なら課題を書けばわかるのですけれども、適切であるというのは適切だから適切なので。

宇都木委員 私はなぜ②に評価したのかというのは、それなりの評価の理由があって②につけるわけだから、理由がなくて②につけます、①につけます、③につけますという、

それはちょっとまずいと思います。

理由があるべきでしょう、評価したら評価する理由というのは。私はそう思います。

加賀美委員 コメントのところは必ずしも必須ではないと思うのですが、その委員が全体の委員なりの考える尺度で評価をしたのが②ということなので、理由があえて書いてないのもそのコメントするまでもなく②だというふうにとらえてもいいのかなと思いますけれども、一方で宇都木さんがおっしゃるようにその理由がないと全然わからないじゃないかという、それはあるのですが、とりあえずこのところでは理由が書いていなくても評価点の上ではいいと思います。

久塚会長 これを1枚の紙にするとこういう形なのですが、評価点を1枚のペーパーにまとめるだけで、別配付資料に各委員のコメントというのは別のペーパーに書くとうように見えてくるというのが。

伊藤委員 今全体のことにちょっとかかわってしまうのだけれども、役割分担の決定方法。役割分担はできているのだけれども、役割の決定。例えばこのNPOさん、それから行政側、それから商店街、区商連。そういう役割分担というのはあまりできていないのだ。

だから、決定方法というこの決定、役割はできているけれども決定方法がこの制度ではないけれども不明確というような判断をしてみたらどうでしょうか。ただ、あまりだから高い点数はつけられなかったのですけれどもという。

久塚会長 伊藤委員の個人としては、評価は別にして今のようなご発言をいただいたわけですが。

宇都木委員 例えば全部理由がなくて③だとか②だとか①だとか、そういうのが全部出てきたらどうするのですか、そういうものを認めるのですか。

久塚会長 全部ということが出てくるところは、このペーパーのつくり方を考えると。

宇都木委員 だから、何のために点数を評価しているのかという、それなりの理由があつて点数をつけるのだから、それは簡単でも書いてもらわなければいけないと思います。

久塚会長 二つの課題があつて、一つはできるだけ書いてくださいと、簡単でもいいから。二つ目は委員のコメントのまとめというよりも、別の紙につくって評価点だけつけるとうあまりそういうことが見えないかなと。

及川委員 初めて評価に参加したのですが、確かに評価のコメントのない評価の点をつけた部分は幾つかあったと思います。というのは、これ項目の内容が結構細かかつ

たものですから、どこにどの疑問点などを当てるべきかということをやっと迷った部分もありまして、皆様この項目でつけていたのを私はこっちでつけていたというのを今ちょっと確認していたところなのです。

全体としては厳しく私は多分これ、私、Eをつけたのですけれども、この項目の部分に関していうと②であるなというような部分は確かにありました。やっぱり細かく全体としてはCなりDなりであっても、部分、部分の項目でAが出る、Bが出る、①が出る、②が出るというのは、これはあっていいのではないかなと思うのです。

ということを見ると、全体として例えばDが出るような部分、Cになるような部分でも②がつくこともあるというのはいいと思うのですけれども、例えば今の4番に関しては、印象として確かに評価点③のところのコメントの部分も多いですし、評価③でもいいのか、③のほうが適切ではないかなというような印象は持ちました。

久塚会長 これは特に及川さんがどうこうではなくて、このシステム自体がもう仕方ないようなことになってしまっている。十幾つ項目を設けていて、1番目と2番目が完全に独立しているように見えても、1番目に書いたコメントが2番にも適用するようなことはたくさんあるわけです。

そうすると、二つ目のコメントを書きにくいというか、1番と一緒にしたいことになるけど空白になることもあると思うのです。だから、それはそれで仕方がないことだと思うのです。全体的に厳しく例えばあまり高くない評価を出したにしても、個別の中でAというものが、すぐれているというのが複数出てくるというようなことは幾らでもありますのでそこは仕方がない部分です。

あくまでこの事業を問われた12の項目について、①番から④番までで各委員がどうつけるかということが仕事なので、それぞれのことで画一的な理解があったとすると委員会には要らない。1人で出した答えが全部一緒になるはずなのです、そうなる。そうではないので委員会があって平均点を出すことの意味があるので、バラバラになることが前提としてすばらしいことなので。

及川委員 それで自分の中の評価のつけ方として今の話にもあったのですけれども、全体は低いけれども、例えばその全体が低い一番の要因として人数が全くわかっていなかったという場合にニーズだけがDが、④番がついて、ほかの全部の項目が①番がつくということもあり得るなと思いつつながら。

久塚会長 幾らでもあると思います。

及川委員 ですから、その個々の番号については内容によって分けていいのかなど。この内容に関しては③番でもいいのかなというふうに感じますけれども、いかがでしょうか。

久塚会長 それ、今までもずっと経験していることで、総合評価が先にあって、個別のコメントというのはその内訳みたいに考えるようなパターンもあったのです、先に結論を出して、CとかDとか。その理由は1番の問いが②だと、2番の問いが何だと。それをひっくり返した時期がある。要は個別のやつを積み上げたようなイメージにつくって、最後に総合評価と。

だから、総合評価を先に出して、その内訳みたいに12番まで出すといった時期もあるのです。だけど、そうではなくて個別のものの積み上げが総合評価でしょうという意見もあって今のような形に当面つくっているわけ。だから、なぜそういうことを言うかという、及川さんの発言にあったように全体的に見てこうだけれども、中身はこうだったというような考え方をされる方と、逆に1番から積み上げていって12番までいった結果CだとかBだとかと考える人もいるし、やっぱり人によってそれぞれだと思うのです。

及川委員 わかりました、ありがとうございます。

久塚会長 では、2. 4。これ、③まではいかないという形で、ただ③に近いということから言うとするならば、4番目の役割分担の決定方法のコメントのところ、課題はあるがほぼ適切であるというような、適切であるというのと、もうちょっと右にいったような形でのコメントに力を入れるということによろしいですか。

各委員 はい。

久塚会長 5番目の項目です、②。

6番目の項目で③。

7番目の項目で③。

8番目、これも③ですね。

9番目、③。

10番目、③ですね。

11番目、②。コメントのところはもう大体おわかりでしょうけれども、赤いのでマークしている、カバーしているのがプラス評価のコメントなのです。

12番も②でよろしいでしょうか。

総合評価にいく前に読み上げさせていただきます。②、③、②、②、②、③、③、③、

③、③、②、②、よろしいですか。

各委員 はい。

総合評価、Cということで先ほどのものと同じ総合評価になります。

各委員 はい。

久塚会長 最後の地域防災になります。1番目、評価点②。

評価点②、2番目。

3番目、評価点②。

4番目、評価点②。

5番目、評価点②。

6番目、評価点②。

7番目、評価点③。

8番目、評価点②。

9番目、評価点③。

第10番目、評価点②。

11番目の項目、評価点②。

12番目の項目、評価点②。

③とついたのが7番と9番で、それ以外はすべて評価点②ということですが、よろしいでしょうか。

各委員 はい。

久塚会長 総合評価がBということで、よろしいでしょうか。

各委員 はい。

久塚会長 では今度は先ほど②とか③とかつきましたけれども、それに加えて各委員からコメントをいただいています。こういうふうに記述したのは自分が違うとか、だれが書いたとかいうことはなしに、最終的に報告書にまとめるための会議ですので、自分を書いたのだけれどもというようなことはおっしゃらなくて結構ですので、左側の四角の中をまとめて右側のほうのような形にしたということを含めて事務局からまた説明していただきます。

事務局 では、コメントのまとめの部分について移らせていただきます。本日ですけれども、事前にメールでいただいた委員の皆様からのご意見をもとにコメントまとめのほうを事務局のほうで整理をさせていただきました。

まとめに当たりましては、事前にお配りしました協働事業評価のための主な着眼点、こちらのほうを踏まえて整理をさせていただいております。資料1のほうをたたき台としてご意見のほうを本日いただければと思っているところでございます。

なお、まとめ方についてなのですが、比較的多く寄せられているご意見を中心に昨年度までの報告書ですとか、全体の整合性を図りながらまとめさせていただいております。

それから、本日お配りしたコメント欄のところには、コメントまとめに使ったそのもののコピーのコメントの部分です。プラスのご意見のところにはピンク色、マイナスですとか課題については青色、また昨年度と同様の表現とさせていただいている部分につきましては赤字という表現とさせていただいております。

では、1-①、新宿スポーツ環境推進プロジェクトでございます。まず、1番の事業における区民ニーズや課題のとらえ方ということでございますけれども、各委員から寄せられているコメントとしましては、課題やニーズをとらえているというようなコメントだとか、ニーズをより積極的に把握していくべきではないか。参加者数に課題があるのではないかなというコメントを多くいただいております。

それを踏まえまして右側のコメントまとめのほうにまとめさせていただいております。こちらの事業のニーズや課題のとらえ方という点につきましては、毎年度大きく変わらない部分であるかなというふうに考えておりますので、事業の拡充があったとか、実施している中で発生したものがあれば記載をしていくようなイメージで作成をさせていただいております。

前段の赤字の部分につきましては、昨年度とほぼ同じ表現となっております。また、以降の黒字の部分は、今年度追加として入れさせていただいております。多文化交流事業を今年度は実施しておりますので、その課題のとらえ方を記載させていただいております。

また、「一方で」以降では青色でコメントをいただいている部分を中心に入れさせていただいております。多くの子供たちにスポーツを体験してもらおうという目標から考えますと参加者数が少ないことは課題となりますので、さらにニーズの把握が必要であるということに記載させていただいております。

以上が1番でございます。

1枚おめくりいただきまして2番をごらんください。2番につきましては、各委員のコメントといたしましては、成果目標の設定は適切で明確であるというようなご意見をピン

ク色のところでいただいております。しかし、一方で青色の部分として、より工夫が必要であるとか、目標に照らして目標値の検討が必要であるというようなご意見もいただいているところでございます。

あと下から2番目の項目は、アンダーバーをさせていただいているところにつきましては、この後の6番のコメントのほうに反映をさせていただいております。

以上の各委員のコメントのほうを踏まえまして全体部分につきましては、成果目標の設定について明確な目標のもと実施している点。また、目標値の見直し等柔軟な姿勢で実施している点を評価させていただいております。

「一方で」以降は、最終的な目標としている区内のスポーツ推進という視点での目標では検討が必要であるということに記載させていただいております。

続きまして、3番をごらんください。

3番、協働の相手への期待とその成果でございます。コメントといたしましては、参加者数の点で課題が残ることですとか、スポーツ団体等との連携を図ることがもっとというようなコメントが多く寄せられているところでございます。

こちらを踏まえまして前段の部分では、この設問の着眼点のほうが相手方との問題意識のうち相乗効果の把握と認識の一致ができているかと、そういうところになっておりますので、意見交換等で進捗状況の把握や問題意識の共有は図られているという点について一定の評価をさせていただいております。

「しかし」以降につきましては、スポーツ関係の団体等との連携を図ることの必要性を入れさせていただいているところでございます。

3番につきましては以上でございます。

そして、4番でコメントといたしましては、役割分担は適切であるというコメントが多かった一方で、青色の部分になりますけれども、参加者数が少なかったというのが課題であるというご意見もいただいております。

前段の赤字の部分は昨年度とほぼ同様の表現とさせていただいております。「一方で」以降で、課題に対して役割分担をより効果的に行っていただきたいという点について記載をさせていただいております。

4番は以上でございます。

5番をごらんください。コメントといたしましては、進捗等に関する情報共有が図られているというご意見が比較的多く寄せられております。ただし、やはり参加者数の点につ

きましては課題があったのではないかというコメントも寄せられております。

こちらを受けましてまとめのほうでございますけれども、前段部分につきましては進捗管理や情報共有がなされていることを評価させていただいております。「一方で」以降でございまして、参加者数の部分が課題となるということと、必要に応じて軌道修正を図るなど柔軟な体制で執行してほしいということを記載させていただいております。

続いて、6番でございます。コメントといたしましては、話し合いによる情報共有ができていくというコメントが多く見られるところでございます。一方で、やはり参加者数、目標達成がなされていないという課題として上がっております。

こちらを受けましてまとめのほうでございまして、前段の赤字は昨年度と同様の表現で共有がなされているという点も評価をしております。「また」以降で雨天中止時の代替日の設定の部分です。本年度工夫をしていただいておりますので、その点について記載をさせていただいております。

「しかし」以降のところ、より多くの子供たちの参加という目標に対しては、さらなる取り組みが必要であるということ。それから、前のほうの設問の2番の先ほどのアンダーバーの部分でございまして、コストパフォーマンスが悪い事業になってしまっているというご意見をいただいておりますので、それをここに入れさせていただきまして、費用対効果の視点からの改善が必要であるということを記載させていただいております。

続きまして、7番でございます。参加者アンケート等による意見集約をしている点につきましては、ほとんどの皆様が評価をいただいているところでございます。より広い対象者のニーズ把握やもっと具体的な項目の設定が必要ではないかというご意見も多くいただいております。

こちらを受けまして前段の赤字はアンケート調査を実施している点、満足度も高い点を評価させていただいております。「しかし」以降で保護者・指導者向けアンケートに具体的な項目を設定すべきであること。さらに対象者をより広い対象者から意見を聴取する機会を検討すべきであるということを記載させていただいております。

続きまして、8番でございます。こちらにつきましてもコメントとしましては、さまざまなスポーツ団体と連携が必要であるというコメントが全体的に多く寄せられているところでございます。

これを受けまして全体ではいろいろな場所でイベントが開催されておりますので、その点も評価とさせていただきます。「区内で」以降の部分で区内のスポーツ環境の推進とい

う点で考えると、スポーツ団体と多様な主体との連携を強化するべきであること。そのためには団体の積極的な働きかけや区のネットワークの活用が必要であるということを記載させていただいております。

続きまして、9番でございます。こちら参加者の満足度は高い点は評価できるというご意見が多くなっている一方で、やはり参加者数が少ない点では区民満足度が高いとは言えないのではないかというコメントも多く寄せられているところでございます。

それを受けまして、まとめの部分としましては、前段の赤字の部分は参加者の満足度が高い点をまず評価をさせていただきまして、「一方で」以降で区民満足度という視点では、より多くの子供たちの参加が必要であること。そのためにアンケートでさらなるニーズの把握やより広く意見を取り入れる必要性があることを記載させていただいております。

続きまして、10番でございます。これらにつきましては、参加者数が少ない。また、ほかの団体や区の主管課との連携体制がとられていないといったようなご意見が多く寄せられているところでございます。

こちらを受けましてコメントのまとめのほうも評価点④ということになっておりますので、ちょっと厳しく書かせていただいております。一定の効果は認められるところではございますけれども、参加者数やスポーツ団体との連携が課題であるところから、区民や地域社会への波及効果が十分とは言えないということと、それに伴うプラスの効果のほうを記載させていただきまして、より多くの子供たちへの参加が必要であるということに記載させていただいております。

続きまして、11番をごらんください。課題の把握や共有が図られているかというような着眼点になりますけれども、こちらにつきましては図られており認識は一致しているというご意見が多く寄せられております。

一方でなのですけれども、課題に向けた改善が図られているというコメントもいただいているところではございますが、さらなる取り組みが必要であるというご意見もいただいているところでございます。

こちらを踏まえまして、コメントまとめのところとしましては、前段で改善に向けた共有がなされているということを記載させていただきまして、「また」以降で課題に向けた認識は一致しているものの、引き続き情報共有、課題把握に努めるべきであるということに記載させていただいております。

続きまして、12番をごらんください。こちらの項目でございますけれども、改善すべ

き内容の把握ということで、課題に対してどのような改善を行うべきか把握がなされているかどうかという着眼点でございます。こちらにつきましては、課題の把握はなされているが終了後の展望が見えてこない、効果的な対策がなされていないというようなご意見も多くいただいているところでございます。

これを受けまして前段部分では、課題把握はなされているが具体的な改善策の検討が必要であるということに記載させていただきまして、後段でも「本事業も」以降になりますけれども、3年目になりますので目標に向けて継続的・効果的に事業実施される体制の整備をしてほしいということに記載させていただいております。

それが12番まででございます。

総合評価のところを読ませていただきます。こちらについては本当にいろいろなご意見のほうをいただいているところでございます。なかなかちょっと集約が難しい状況でございました。なるべく多くの皆様のご意見を反映できるようにと思って事務局のほうでも集約させていただいたのですが、ざっくり大きく分類をいたしますと、やはり目標値が達成されておらず結果が十分とは言えないのではないかという点と、課題に対してさらなる改善が必要であるというところ。あとは今後も事業を継続し発展させる体制を構築してほしいというご意見が多く寄せられているかなというふうに事務局のほうでは思っております。

そういうこと等を踏まえましてコメントまとめのほうをつくらせていただいております。まず前段の赤字の部分は、課題のとらえ方や意見交換等により情報共有が図られているという点についてのご説明となっております。こちらにつきましては昨年度までと特に大きな評価の差はございませんでしたので、ほぼ同様の表現で整理をさせていただいております。

黒字以降の部分でございますけれども、まず目標達成に向けて今年度開催されている点がございますので、この点について記載をさせていただいております。「一方で」以降で参加者数が目標値に達していないことを課題としておりますので費用対効果、区民や地域への波及効果の点で改善策の検討が必要であるということ。そのためにはアンケートを通じてより広い対象者からさらなるニーズの把握が必要であるということですか、地域やスポーツ団体、多様な主体との連携を図ることが必要であり、団体のノウハウや区のネットワークを活用して連携を図るべきであるということに記載させていただいております。

最後に3年目になりますので、こうしたことを通してより発展的に事業発展してほしい

ということを記載させていただきました。

以上でございます。

久塚会長 まとめ方としては、今ご発言いただいたように各委員のコメントの中に含まれている要素というのを大づかみにつかんで、それをプラス、評価が高いものと課題の部分に分けて、そして継続したもの、複数年やっておるものですから、前年度などと似たような表現であればそれを使うということをしながらかコメントをまとめていただいています。

出されたものを継ぎはぎする形のまとめ方ではなくて、事務局として各委員の考えていらっしゃることをできるだけ内容として把握をしてコメントとしてまとめるという手順をとっております。

1個1篇文章を直し出すと大変なので、何ページのどれはこのような表現になっているけれども、もうちょっとこういうのを映えるべきではないかと、例えばそういうご意見をいただきますと、それを反映させたものを次回お示しすることができますので、ぜひともそういう形でご協力いただければと思うのですが。

伊藤委員 全体的にこれを今聞いていたのですけれども、半分以上に「前述のとおり」とあるのだけれども、「前述のとおり」と要らないような気がします。とってしまってもいいような気がするのですけれども。

まず一つがそれで、あと一つ11、今後の課題の把握及び共有のところ、下から3行目のところに「区担当課ともに認識が」、ここに課題を入れて、課題認識が一致しているところに、下から2行目の課題の把握ではなくて、これは課題の解決になると思う。

久塚会長 ただ、11番、今後の課題の把握及び共有というふうな評価項目ですよね。把握と共有だから一番最後、伊藤さんが直したところとは把握のままではだめなのですか。

伊藤委員 これ、だけど上のほうでは把握されているようなことが文章にあるから。

だからその下のは、もうその把握の3年目だから解決なので、これだけ把握してもらっても意味がなくなってしまう。この「また」からは、課題を認識しているということでしょう。課題ばかり認識して放っておいてもらっても困ってしまう、解決してもらわなければ。ということで考えたわけですが。

久塚会長 よろしいですか、それで。伊藤さんの表現したかったのは、3年目というようなことがあって、3年目について言えば11番の項目というのは、把握にとどまらないで解決のほうまで向かってくれよということだろうとは思いますが。

各委員 はい。

久塚会長 初年度と、2、3年目というのは評価のニュアンスを変えるということは大事なことだと。ほかには。

宇都木委員 6ページの6番に上から4行目、4番目に成果目標の達成に向けて行われており、適切な対応が図られていると評価しますと言うのだけれども、私は不十分だと思うのです、適切ではないと。成果目標の達成に向けて協議が行われているが、適切な対応ではなくて対応は不十分だというふうにしないと後につながっていかない。

それから、7ページ、アンケートの満足度も高くて、これは参加した人たちが大体それをやろうとして来ているから結構おもしろかったとか、よかったとかということなのでしょうけれども、その参加者の満足度だけを見てこの事業全体の評価をしいのかどうかということをもう少し議論したほうがいいのではないかなというふうに思うのです。

もう一つ参加者が少ないということが指摘されているので、対象は新宿区民なので、参加者数は物すごく少ないです、そういうふうに見ると。だから、ここはもう1回、このところは少し参加者の満足度だけで考えないほうがいいのではないかなというふうに思います。

久塚会長 6ページ目については、表現をどうするかのところまでいくと、1番目は、協議は行われているということと、対応が図られているというのをちょっと切り離すようなイメージで、評価項目としては達成度などの話し合いということについてなので、宇都木委員は協議は行われているということ、それ自体は評価されるにしても、対応の仕方がどうなのかという問題が残るといふ趣旨の発言です。

だから、6番目の評価項目を踏まえたそのような意図が通るようなご意見であるというふうに理解してください。

それから、二つ目も同じで、項目としては6番なのですけれども、ある程度うまくいったというのは参加した人の中ではそうかもしれないけれども、それが区民全体のことかどうかということについてはというようなことを少し加味した表現方法を考えてください。今文章自体を出すという形ではなくて、つくったものを次回にお示しをするという手続にさせてください。ほかには。

宇都木委員 もう一つ、この8番なのですけれども、区内のさまざまな場所でイベントが開催されたことは評価できるというのですけれども、イベント開催会場というのはごく少ないのではないの？ 新宿区内の状況から見たら、例えば学校で一つぐらいやっているかといったらやっていないのではないの？ だから、子供たちを対象にしてやるのだから

らもっと広げて、できるだけ新宿区の全域にまたがるようなこの計画の仕方というのをこれからは考えないと、せっかくやろうとしていることが新宿区全部に広がっていかないのではないかと私は危惧をします。

久塚会長 8ページのところなのですけれども、区内のさまざまな場所という表現ですけれども、なかなか事務局は苦労したみたいで、さまざまな場所というのは各委員のコメントの中に見られないけれども、これはさまざまなスポーツに取り組む団体との連携と、さまざまはやっぱりちょっとなかなか受け取りにくいのです、委員のコメントの中からは。

伊藤委員 学校だとかスポーツセンターでやられたということを行っているのでしょう、学校だけではなくて、スポーツセンターだけではなくて、それぞれの場所という意味だよ。

宇都木委員 対象が新宿区なのだから、限定的な場所でやったからといって、それしかできなかったのかもしれないけれども、やろうとしている、提案しているのは広く区民にということを行っているわけだから、そこはもう少しこれ3年目を迎えて、もう少し意識づけするためにいろんなところでもっとやれるようにしないといけないのではないのというふうに言われる。

関口委員 そこは④になったところですよ。

だから、別に特段な無理やり評価しなくてもいいのかなと思ったのです。

伊藤委員 できるように区内のさまざまな場所でイベントが開催されることを望むとか。

久塚会長 ちょっと預かります。委員の皆様の意見を踏まえて事務局で調整してください。

事務局 はい。

宇都木委員 それから、14ページ、これDに評価した人の意見なのですけれども、この上から6行目のほうから、新宿区のスポーツ事業に関して現在行われている事業で十分満たされていると考えていると。区の事業のほかに東京都が行っている夢事業なども行われているほか、オリンピック選手といった一流プレイヤーに接する機会は驚くほど多い。他縣市町村であれば事情も違い、子供たちがオリンピック選手に触れる機会が少ないであろう。そのような地域とのさまざまなスポーツやアスリートとの関係、要するにほかとは新宿区は環境が違うのだと。

特に問題は、これ、どういうふうに理解していいのかわからないけれども、やるべきでないと書いてあるのです、結論は。その下のほうに、区民委員としては団体の事業の方向性の見直しを提案したい。新宿区のイベントで人を集めるという発想を捨てて、既存のシ

システムに参入してはどうかと。これは選ぶときのこれ協働事業にするか、しないかという選択をするときの議論はこういう議論でいいと思うのですけれども、この2年過ぎてしまって、今からこんなをやめたほうがいいよという話はちょっと。

これはもし出ていくのだとすれば、この委員会の議論は何だったのだ、何でどうやって選んだのかという、選んだそもそものところに立ち返らなければいけない議論になってしまうと思われるので、ここのところは少し注意して、もし入れるのだとしたらこのままやったら大変なことになる。

久塚会長 それ、右側のほうのコメントのまとめの中には入っていないですね。

宇都木委員 うん。だけどこういう議論がこの委員会の中で行われているということがちょっと、行われるということが少しどうしたものかと。これ、この委員会。

関口委員 議論ではなくて各委員がどう評価するかはその各委員の自由なので。

宇都木委員 いや、それはそれでいいのです。だけど、それは今やめるべきだという議論にはならないという、これは協働事業でも3年目を迎えているのだから。

それを今ここでやるべきで見直したほうがいいとか。

及川委員 事業を選択する段階でこうだ、こうだという内容ではなくて、何にしる最初の目標設定をしてこういうふうに行くといいなということで事業を選んだと。その流れの中で、やはりみんなはこれであまくいくのではないかと行って進めたけれども、やっぱり結果として難しかったということもあり得ると思うのです。

それを最後の段階で、いや、でもこれは、目標値はこれで、この方向でいくからやろうと決めたのであるから、それを最後までこの方向でいかなければいけないというのであると、そもそもの事業の目的の区民への効果、区民の多くのためにというその大きなところ、目標からはずれてしまうのではないかと私は考えますので、この段階、協議の段階で最後に180度方向転換をするのはそぐわないとは思いますが、協働事業として取り組んだ結果を今後に活かしていかないと、ちょっと予算をつけている事業ですし、もったいないなというふうに考えています。

久塚会長 要するにあれでしょう、ここを書いた方はあなたであるかどうかは別として、団体の事業の方向性を見直しの提案というのは、この協働事業としてなされているものを今のようなやり方ばかりやっていたはちょっと問題だよということをおうとしたということではないのですか。方向の転換というのは、要するにここをやっているのをやめろということではなくて。

今までここに採用されて、何年かかかって、大体こう似たようなことでやっているの、ちょっとやり方を工夫したらというふうに思ったことがこの方向転換という、方向の見直しという言葉だと思うのです、私自身は。だから、新宿区のイベントで人を集めるというそういう今まで2年間やってきたようなやり方ではなくて、もうちょっとちゃんとしてよということの表現がこれだと思ったのですけれども。

ただ、宇都木さんの意見は方向転換、ここで区の何とかかんとかというふうに書いているところを宇都木委員にどう読めるかという、私ももう一つの読み方をすると違う読み方をするのですけれども、団体が今採択されているけれども、そういう事業の方向という区がいろいろ事業を持っているのでそっちのほうにいきなさいと。この文章で言うと既存の新宿区がやっているシステムに参入で協働というのをやめたらという文章にも見えるのです、この2行が。

だから、宇都木さんのようなご意見が出ているのです。私たちは採用したと。採用したことからいうと、もうちょっとちゃんとやってねという、今まで惰性でやっているのを見直しなさいということを書いているのが、違うように見える文章になっているのです。

宇都木委員 もっと言うと提案はこういう事業計画で3年間こういうことをやって、こういう目標を達成しますというものが全部示された提案になっている。それを採用したわけ、ここは。それがだめだと言うなら、もっと1年目も2年目もここを直しなさい、あそこはまだ計画どおりいっていない、計画どおりやりなさいという指摘をドンドンして、にもかかわらず全くそれをやって別のことをやっているというのだったら、これは中止なのです。協働事業ではないということは、もともとの提案の事業ではないよと、変質してしまっているのではないかという場合は、もう中止させるというのが本来委員会としてはあるべき姿だと思うのです。

及川委員 中止に追い込まずに最後のまとめのときに、よりよい形で何かを見つけていくというのは難しいのでしょうか。

宇都木委員 指摘して人が何で集まらないの、もっと集めることを考えなさい。既存のスポーツクラブだとかというのともっと連携をきなさい、地域社会にもっと子供たちがそのスポーツになじみ得るような指導者を育成しなさいとか提案してきているわけだ、もう少しそこを強化しろとか広めろとか。そういうことがまだ少ないから今、きょう評価したみたいにもう少しあそこを強化しなさいと、ここをもっと広くやりなさいと。こういう全く違うことをやれということになってしまったら、それはもう路線変更だから、言ってみ

れば方向転換なのです。

それはだから採用した側がそこまで言うのだったら、もうこれは中止して、これはもうこのままやったのでは目的が達せない。お金がむだだ、やめたほうが良いというふうにしなないとだめだ。

だけど、そこまではみんなの結論が至っていないのです、まだ。もう少し補強すればもうちょっといいことになるから、合格点近くはとれるのではないかというのが、きょう皆さんがいろいろ指摘したことでしょう。そうじゃないと協働事業自身ももう1回原点に戻って議論しないと、そういう協働事業だというふうにしなないとだめだというのは、もう中止にしましょうとかということにしなないと。それはひどい場合は中止というのはあり得るのだろうけれども、通常の場合は選んだ側としてはそういうことをさせたくない、責任を持って選ぶのだから。

及川委員 そうですね。

久塚会長 システムとしては一個人の集まりの集合体として委員会が1個の結論を出しているわけ。だから、コメントの中に一委員として書くのですけれども、それが前提となっているのは、これが採用された協働の提案事業というものは前提となっているので、それを変えるような形のような発想になると論点が変わって、ここにはそぐわないという結論を取りに行くことになるのです。

多分ここを書いたときには、先ほど言ったように、私が最初に言ったようなことを表現したかったのだろうけれども、見る人が文章を見るとこれをやめなさいみたいに見える。

ただ、それがそうになると、結論としてよくないのでやめるというようなところまで踏み出すことになるので、まだそこまではいっていないから、事務局案のコメントの中にはそれが書かれていないということなのです。

及川委員 わかりました。

加賀美委員 及川さんは今年委員になられて、まだ3年間の提案制度仕組み自身をまだ完全に理解していない部分があるかと思うのでこういう評価をされたと思いますけれども、会長とか宇都木委員がおっしゃるように、これから3年間の計画を各年度ごとにどういうことをやって、その達成度はどこまで考えているのかという計画を出してもらって、それをこの委員会で審査をして、それで採択をしているということですから、その内容的には微調整はもちろん今のほうの評価とか関係でこういうふうにしる、ああしろとあるのかもしれませんが、それは本来のもともとの計画をガラッと変えるようなものでは

あり得ないのです。

ただ、そこはこれからちょっとそこをご理解していただけたらなと思った次第でございます。

及川委員 ありがとうございます。やはり行政がなさるお仕事という、やっぱり最初に決めて、それまできちんといくというのが印象なものですから、もしここに何か不具合があった場合には、区民のことを考えるとこの事業を方向転換するべきかどうかはまた別としても、変えていけることも。

久塚会長 おっしゃっていることはわかります。

複数年度予算をつけたからと言っても不十分だったらすぐやめるべきだというのはある意味常識なのです。その予算が通って事業化したからまずいと思っている事業というのも採択されたから最後までいくのかという、それがお役所かというようなご意見まで突き出してくると、それは一般論としてはそう。だけど、この委員会の中での採用されたこれはそれほどひどいものではないともう私は思うのです。

及川委員 わかりました、ありがとうございます。

吉村委員 一番最後のところで協働の相乗効果がより発揮されるというのは、だから「より」はなくして、最後のところに要するに総合評価につながるところで気になったのですけれども、13ページの一番下のところでさらなる相乗効果となっている。相乗効果はまだ全然効いていないと思うので、「より」とか「さらなる」というのは削ってほしいという意見です。

久塚会長 文章をできるだけ良音で書きたい気持ちはわかるけれどもということで事務局お願いいたします。

では、先ほどご理解いただいたように、基本的には各委員の言葉をそのままの形で基本的にはコメントを出しています。その中で色分けはもう説明したとおりなのですが、それを単につなげるような形ではなくて要素にばらして、プラスのところ、マイナスのところをギュッとまとめる形をことはとっています。

したがって、文章としては、非常に流れはよくなっていて、過去見られたような全員のを入れるという形ではなくて、少し事務局が頑張ってまとめた形になっている。それだけに無理やりプラス評価をする部分を入れたり、無理やり逆でマイナスのところを入れたりして整合性がとれるようにバランスをとった文章になっているので、先ほどご意見があったように、吉村さんからあったみたいに例えば④がついているのにプラスのところは割に

積極的に表現されているみたいなどころが残っているかもしれないのです。

そういうところに目を配って事務局にご意見をいただくということでもよろしいですか。

各委員 はい。

久塚会長 では、そのようにさせていただきます。いつまでにももらえればいい？

事務局 次回の会議が来週の金曜日にありますので。

火曜日でいかがでしょうか。

久塚会長 では、その間に忙しいでしょうけれども、火曜日にいただいて、水、木でまとめいただくということにします。

事務局 はい。

久塚会長 そして、案は出しますけれども、出し忘れたのを含めてもう1回やれますので、ただそこでは結論を出さないとはいけません。

では、資料2を使って説明を。

事務局 資料2のほうなのですけれども、昨年度の報告書をベースにレイアウト案のほうをつくらせていただいています。ちょっと詳しい説明は本日省略をさせていただきますので、後ほどごらんいただいて、また何かありましたらご意見等いただければと思っております。

レイアウトはほとんど変えておりませんのでごらんいただければと思います。

2ページ目の下のところに網かけ部分を入れさせていただいているのですが、これは昨年度と全く同じ表現が今は入っております。会長のほうとご相談させていただきまして、次回この部分の案文をまた皆さんにお示しさせていただきたいと思っております。それから、32ページまでしかついていないのですが、33ページ以降に本来ですと各団体の資料が全部つく予定になっています。本日はついておりませんが、次回までにご用意をさせていただきたいと思っております。

資料2につきましては以上でございます。

次回開催でございますけれども、机上配付させていただいております。こちら来週の金曜日午後2時から4時までの予定で、同じフロアの第4委員会室のほうになります。なお、支援会議の委員の皆様は、引き続き支援会議のほうも予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

次に、今後の予定でございます。協働支援会議等開催予定のほう、カラー刷りのものをごらんください。まず、9月8日の9時半から区長への報告書の提出となっております。

また、続いて事業視察のご案内のほうをさせていただきます。実施1年目事業のごっくんリーダーの視察でございますけれども、9月10日の午前中を予定しております。榎町地域センターのほうでイベントのほうを見させていただくという予定になっております。2時間の時間を記載させていただいておりますけれども、このうち1時間程度の予定となっております。詳細なタイムスケジュールが決まりましたら、またお知らせをさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

また、次の第4回の協働事業評価会の日程もお知らせをさせていただきます。こちらは1年目事業のヒアリングになりますけれども、10月13日の午後2時から4時までの間で本庁舎3階302会議室の予定でございます。

以上でございます。

久塚会長 よろしいですか。長時間にわたり、ありがとうございました。委員からいただいた意見を反映させた成案をお示しできればというふうに思います。終わります。お疲れさまでした。

事務局 ありがとうございました。

— 了 —